

フライデーEYE

仲田種苗園(石川町)
代表取締役
仲田 茂司さん

—東京農大造園大賞の受賞など、野草を寄せ植えした「野の花マット」の開発が高い評価を受けています。

◇野の花マットはスミレ、ホタルブクロ、ナデシコ、キキョウ、オミナエシ、ワレモコウなど春、夏、秋に花を咲かせる野草を、縦四十八センチ、横三十四センチ、厚さ四センチの長方形のマットに寄せ植えした商品です。野草は基本の十種に、状況に応じて選んだ五種を加えます。マットを何枚も並べれば多様な野草を楽しめます。県内産の種を使い、関東地方内陸部から本県中通り、宮城県などの植生帯を再現しています。平成十四年から開発し、十九年ごろから販売個数が増えってきました。都市部の屋上緑化などに活用されています。

「野の花マット」で東京農大造園大賞



石川町出身。白河高、同志社大文学部卒、東京農大大学院造園学専攻修了。昨年、エコジャパンとしてJ P地域共存ビル賞を受賞。同町中佐和子夫人、53歳。長女3人、長男3人。

—なぜ評価されたと感じますか。

◇都市部で自然を回復する動きが具体化し、屋上緑化の需要が増えてきたからでしょう。ま

ふくしまの造園を担当した際に知り合った設計事務所の方にこの姿勢を評価していただき、在

来種を寄せ植えしたマットを開発してはどうか、と提案を受け

—地元の小学校で環境ビジネスについて講演しました。

◇日本は植生が豊かな国です。阿武隈山地は北方と南方の

植物の可能性引き出す

た、野草は癒やし、安らぎの効果に加え、懐かしさも感じさせます。数年前、東京で展示会を開いた際、毎日パソコンに向かいストレスを感じているという三十代の女性から「癒やされる」と声を掛けていただきました。

—各地で里山を再生する動きが活発化しています。

◇当社の生産理念は「在来種(主)義」です。アクアマリン

◇野の花マットは豊かな里山があって初めて成立する商材で

植物が混在する地域で、特に豊かだといえます。子どもたちへ地元の資源に目を向けてもらい、できれば新たな切り口の環境ビジネスに取り組んでもらいたい。地場産業が元気になれば地域の幸せにもつながります。幸せを感じられるまちづくりに貢献してほしいですね。

聞き手・柳沼 光